

特249

397

# と開打點 設建の本日精神

述實 郷東 士博學農 官次務政部文

行刊會合聯體團化教央中



# 始



特 249  
397



文部政務次官  
農學博士 東

郷

實述

【國民更生叢書第四編】

國難打開と精神日本の建設

財團 中央教化團體聯合會刊行



## 例言

本篇は昭和七年十月十三日、仙臺市東北帝國大學講堂に於て開催せる財團法人中央教化團體聯合會、宮城縣教化事業聯合會、宮城縣、仙臺市の四者共同主催による國民更生大講演會に際してなされたる、文部政務次官、農學博士東郷實氏の講演を速記し特にその校閲を得て之を公刊せるものである。

# 國難打開と精神日本の建設

文部政務次官 農學博士 東郷 實述

一

我が國の現状は右を見ても左を見ても、實に憂ふべき事のみであります、政治の行きつまり、經濟の行き詰り、さうして思想の行詰り、色々の國難來が叫ばれて居るのでありますが、此の國難打開の爲めには、九千萬國民が總動員を行ひ、涙ぐましい程の眞剣な努力をしなければならぬと思ひます。殊に地方農村、農民の行詰り、中小商工業者の窮乏、我が國の行詰りを打開せんが爲めには先づ此の二つの行詰りから打開しなければならぬと云ふ叫びがやかましくなり、第六十三議會もその爲めに特に開催され、政府といたしましても、これが應急對策として不充分ながらも色々の施設を行つたのであります。併ながら私は信するのであります、此の非常時に於て此の國難打開の爲めには斯の如き應急對策のみを以つてしては到底満足することは出來ない、どうしても今日は此の國難を一掃すべき大きな根本對策を建て、かゝらなければならぬと信じます。

一

斯如き根本の對策を必要とするならば、我々は今日の凡ゆる行詰り、此の國難の由つて來たる根本原因が何處に潜んで居るか、先づ之れをハッキリ認識して、かゝらないと折角やつた所の對策も充分な効果を擧げ得ないと思ひます。然らば今日の此の行詰りの根本原因は何處にあるか、世間では色々な見方をして居ります、或ひは此の行詰りは世界的不景氣の結果だ、故に日本のみを以つてしては如何ともする事が出來ないと云ふ意見もあるやうであります、なる程世界は不景氣であつて今更、私が申上げる迄もない事であります。併ながらその不景氣の眞只中に於て左程不景氣でない國もあり、又不景氣であつても、その程度に色々あります。斯くの如く不景氣の程度に差違があると云ふならば、國々に依つて自から其の根本の原因に相違がなければならぬ。日本が今日非常なる國難に遭遇して居ると云ふならば、その國難來の原因事情と云ふものは日本だけに特別の原因事情があるべき筈であります、故に此の日本に取つての特種な原因事情を先づハッキリしてかゝらなければなりません。

## 二

若し世人が言ふ通りに我國今日の行詰りが、外から受けた傷だと致しますならば、その療治は差

程困難ではありません。何故ならば我々が非常な大きな怪我をした、その怪我が戰慄すべき程の大負傷であつても治療方法が適切であれば案外早く治ります。併しながらその病氣が内科的病氣である場合、例へば肺病を患つて居る場合には、一見したところ、大した重病でないと思つてゐても、根治はながく困難で何時の間にか弱り果てなければならぬと云ふことになる。斯くの如く病原が體內にある場合には却々治療が困難である、而も之れを根治するには徹底的に病原を排除しなければならぬと云ふことになる。私は日本の今日の行詰り、此の病狀は、外傷に非らずして病原は體內にあると思ふ、國難と云ふものは外から來る場合よりも、中に發する場合が多いが、我國今日の國難もその通りであると思ひます。然らば其の病原は何處にあるかと云ふことを考へなければなりません、之れに就いても色々議論がありませう、然し大きな原因として我々が見逃すことが出來ないものに就て述べることに致します。

## 三

第一は明治維新以來我が國が政治の上に中央集權の制度を取つたと云ふ事であり、永い間封建制度の下に各藩が或程度に於て自由にやつてゐたのが御一新に依つて國家的に統一されたの

であるから、その統一を鞏固ならしむる爲めに、明治政府が中央集權の制度を取るに至つた事は、當然のことでありまして之れは過つてゐない、併ながらその中央集權の制度が六十年後の今日に於ても、尙ほ依然として行はれてゐると云ふ處に一つの大きな缺陷があると思ひます、即ち餘りに我が國の政治が中央集權に偏してゐることが大きな原因の一つであります、それからもう一つは産業の上に於ける歩み方に一つの大きな缺陷がある點であります。我々は一生懸命に努力して我が日本の國を一日も速かに外國に劣らない國に築き上げなければならぬと云ふのが明治以來の國是であつた、處が我が日本は永い間鎖國をしてゐた爲めに、歐米の諸國に比すれば非常に遅れて居つた、其の中でも特に劣つて居たのは物質上の方面であつた、故にこの點に就て時の爲政者が色々思をどらしたと云ふ事は當然の成り行きであります。而してその結果比較的金儲けにならない不利益な農業は後廻しにしても金の這入る商工業に大いに力を盡すと云ふ事になつたのも當然のことでもあります。之れは日本許りではない、外國に於ても十八世期の末から特にこの傾向が盛んになり、農業が片隅の方に押しつけられて居つたのであります。日本に於てもさう云ふ風になつたのは或は當然であつたかも知れないが、兎に角其の結果産業の上に於ても商工偏重の國策が盛に行はれ、大きな商工業に非常に重きを置くと云ふことになつた。獨り産業上の問題だけ

やない、その他總ての文化的施設——經濟、金融、教育、衛生、交通等——凡ゆる施設が都市に偏すると云ふ、自然の結果を生んだのであります。

斯くの如く政治、産業其他凡ての文化的施設が都市中心主義に偏した結果、そこに都市繁榮の喜びを見ると共に地方農村疲弊の叫びを聴くに至り、又一面に於て商工業の非常な發展を樂しむ反面には農業停頓の悲しみを發見するに至つたのであります。斯云ふ事が今日に經濟上の行詰りに於て特に地方農民が一層の苦みを感じるに至つた根本原因であります。

地方農民の事は農村の人だけの問題のやうに世間では思つて居るがさうではない、農村の疲弊は總て中小商工業者の窮乏になり、都市經濟の行詰りになる。近頃のやうに農産物の價格が不當に低落し、どうしても生産費を償はないやうでは農村は益々疲弊する計りである、我が國の工業生産品の八割迄は國內消費であり、特に農民の消費がその大部分を占めて居ります。故にその農村の經濟が極端に行詰つた場合、その次に非常な困難を感じるものは都市に於ける中小商工業者であります、故に今日では農村が一番窮乏のドン底にありその次が中小商工業者である、即ち農村を救ひ、中小商工業者を救ふと云ふ事はもはや議論でなく事實の問題であります。さう云ふ風に考へたならば都市中心、中央集權の文化的施設必然の結果が中小商工業者を行詰らせ、我が國

の經濟界總てを行詰らせて居ると言ふより外はないのであります。今日では「人」も「金」も「物」も悉く都市に偏在し、これが地方農民、窮乏の主因を爲し、之が地方農村行詰りの極端な根本原因を爲してゐるのであります。故に今日の急務は、中央集權の政治を緩和して地方分權の制度を確立し、同時に農業に重きを置くといふことである。都市の文化的施設も無論大に發展せしめなければならぬが、地方農村の文化的施設をもつとく重きを置いて發展せしめなければなりません。

## 四

然らばどうしてそんな風に日本が特に都市中心主義に偏し地方農民を軽く取扱ひ、農業を比較的重んじないことになつたかと云ふとその原因にもう一つ大きな根本的のものがあると思ひます、それは何んであるか、それは明治大正六十年の長きに亘り、終始一貫我が國が一も二もなく西洋の文化を模倣し來つたことであります。我が國の新文化は歐米の文化の模倣である、私はそこに日本の此の驚くべき進歩の基礎があると思ふが、それと同時に今日の憂ふべき凡ゆる世相の病原が潜んで居ると思ひます。

私は茲に文化問題に就て詳しく申上げる時間がありませんが極く簡単に言つて見るならば、我

我個人／＼に就て考へて見て我々の心の中には常に二つの異なつた力が宿つてゐる。其の一つの力は誇大性であつて、物を美しく、清く正しくして行くと云ふ力、所謂向上の發展を畫くところの力であり、而してこの力の極度に表現せられたものが「神」であります。それからもう一つは批判性であつて物を在りのまゝ、否な寧ろそれを引きすり落して醜くして行くと云ふ力、その力の極度に表現されたものが「惡魔」であります。

斯くの如く我々銘々の心の中には常に二つの異つた力が宿つて居るがその現はれ方如何に依つて善人ともなり惡人ともなり、又人格者にもなるし非人格者にもなるのであります。而して個人の多くが相集つて大きな民族を作つて行つた場合、その民族にも個人／＼に一つの心理があり精神であると同じやうに民族精神があります、而してその民族精神の表現されたものが、その民族の作り上げた所の文化であります。故に其の民族が神に支配される事が強い場合には其の作り上げた處の文化に神性を帯びて居るのであつて、我々はこれを「精神文化」と名づける。東洋の文化は専ら精神文化であり我が日本古來の文化も精神文化であつた。之れに反して民族精神が惡魔に支配される時の文化——之れを我々は精神文化に對して「物質文化」と稱する、而して十八世紀末より特に著しき發達を遂げ十九世紀に入りて非常な進歩を爲し、二十世紀の今日に於ては殆んど

全世界を風靡するに至つたところの西洋の文化は神に支配される所の精神文化にあらずして、寧ろ悪魔に支配されることの多い物質文化であります。物質文化は都市中心、黄金萬能、享樂第一主義の文化であります、即ち日本が明治維新以來六十年の久しきに亙り終始一貫模倣し來つた所の西洋文化が物質文化であると云ふならば、我が國の現下の文化も同じく物質文化に偏してゐると云ふことは當然であります。即ち今や我が日本國民は黄金萬能享樂第一主義の物質文化に禍せられ、國民の意氣は著しく消沈して居るのであります。だから此の歩み方を此の際一掃すると云ふこと以外に此の國難打開の途はないと思ふ。我々は大いに智識を世界に求めなければならぬ、それが遅れたる所のものを進歩せしむる一つの方法手段であります、ダルトの『模倣心理』と云ふ本にも書いてある通り、模倣は進歩の第一階段であります、故に模倣必ずしも絶対不可といふわけではないと思ひます。けれども己を空うして、總てのものを其儘模倣すると云ふことは恐るべき惡弊を惹起させることがあると云ふ此の事實を發却してはならぬのであります。

## 五

然らば我が國の爲政者、先覺者が、斯云つたやうな西洋模倣の恐るべきものであると云ふこと

に誰れも氣が付いて居なかつたかと言へば、決してさうではなかつた。氣の付いてゐた人はいくらかもあつた筈であるが、西郷南洲先生の如きもその一人であつた。『南洲遺訓』と云ふのがありますがその中には實に啓蒙の遺訓が多いのであります、南洲先生は先づ精神思想の方面より外國模倣の恐るべきをいまして『廣く各國の制度を採り、開明に進まんとらば、先づ我國の本體を居え、風教を張り、然して後徐かに彼の長所を斟酌するもので、否らずして猥りに彼れに倣ひなば國體は衰頹し、風教は萎靡して匡救す可らず、終に彼の制を受くるに至らんとす』といつて居られます。即ち我々が廣く各國の制度を學んで日本の國を進めると云ふならば先づ第一に我が國の國體をハッキリ認識して其の上で若し向ふの事で良いことがあつたならば、斟酌して取らなければならぬ、此の心掛を忘れて我々が一も二もなく外國に倣つたならば日本の國體は衰頹してしまふ我々は日本民族であると云ふ此の信念、之を忘れて己を空しゆうして一も二もなく外國に學ぶと云ふことになれば、精神の上に思想の上に遂に彼れの支配を受るに至らんことを憂ふるものであります。

更に又南洲先生は經濟物質の方面に亙つて國民に醒告して『猥りに外國の盛大を羨み、利害得失を論せず、家屋の構造より玩弄物に至るまで、一々外國を仰ぎ奢侈の風を長じ、財用を浪費せ

ば、国力疲弊し人心浮薄に流れ、結局日本身代限りの外有る間敷也」といつて居られます。今日の我が國の經濟的行詰り、殊に外國貿易が逆調に逆調を續けて居る有様を見た時分に、成る程さうだと思はざるを得ませぬ。今日は日本の國家と致しましては此の外國貿易の逆調を防ぎ日本の財界を有利に引き戻さなければならぬと云ふことを考へて居るが却々うまく行かない。我々の子供の時から言はれたやうに「舶來」と言ふ言葉は上等の代名詞であるが如く考へられたその氣持が今日でも去らないで居る。外國貿易逆調匡正の爲め消費節約をしなければならぬと云ふ議論もあるが、猥りに消極政策を取る必要はない、舶來品であつても、それが必要なれば大いに之れを消費するも宜敷しい、併ながら我々の消費すべきものは、それが日本在來のものであつても、亦それが外國からの新製品であつても、可成それを我々の手に依つて我々の内地に於て生産し、之れを消費し、餘裕があつたならそれを、普く海外諸國に送つて販路を求むると云ふ積極的精神を以つて努力すると云ふ事ではなければならぬ、今日の日本人は消費には頗ぶる熱心であるが、生産には努力が充分でないといふ憾があります。これを先づ改めなければなりません。日本が金の輸出解禁をやつて見たら日本の金がドン／＼出てしまつた、それで又再禁止をしなければならなかつたと云ふ有様である、即ち日本が此のまゝで行つたならば經濟的に身代限りをするの外はない立

場に置かれることになつたのが今日の實状であります。さう云ふ事を考へるならば經濟問題の上に於ても外國模倣に終始一貫する氣持を一掃しなければならぬ、經濟的行詰りは總て思想の行詰りになります思想の行詰りになつたならば我々は我慢が出来ないのであります。即ち今日は精神方面から見ても物質の上から見ても經濟の立場から考へて見ても、どうしても六十年間終始一貫して來た所の西洋模倣の歩み方を變へない以上、そこに根本的救濟策はないと思ふ。即ち今日の急務は物質に墮落した國民精神を作興し、享樂第一主義の中毒に悩み切つた國民の意氣を振興することであり、それには外國模倣の弊風を根本的に一掃し、道徳を先にして功利を後にし、物質に先立つて精神を以てし、正道を踏んで大義を行ふところの日本古來の大精神の復活、更生する事であると思ふ、即ち今日の行詰打開の爲めには「經濟日本」の建直しは無論必要であります、併しそれよりもモット／＼必要なのは「精神日本」の再建であります、精神日本の再建、之れが今日の凡ゆる國難を打開する根本だと私は信ずる。

## 六

長くも我等の御年若き聖上陛下が朝見式の詔勅の中に「模倣ヲ戒メ創造ニ勵メ」と仰せられたの



は、この時弊を一掃せんとする大御心なりと拜察するのであつて、これが昭和維新の國是であり、九千萬國民の歩むべき大道を御示しになつたのだと存じます。而してこの大御心に副ひ奉らんが爲めには、先づ以て我國建國の大精神に更生することが、今日の最大急務であります。

然らば我國建國の大精神とは何ぞや、……神武天皇東征の御宣言の中に「天業を恢弘し、天下に光宅せん」と仰せられてゐるのが、私は我が建國の大精神なりと信じます。天業とは天の心を人間文化の中心として營むところの業であつて、今日の言葉を以てすれば「精神文化の建設」であります。而もこれを「恢弘して天下に光宅せん」と仰せられたのは、この精神文化は獨り日本内地計りではなく、これを普く全世界に押擴め、全人類の幸福を平等に増進し、世界の眞の平和を我々日本民族の手に依つて實現しようといふにあつて、之れが神武天皇御東征の大理想であり、又我が建國の大精神であります。

斯の如く我が日本民族の思想精神は廣大無邊であつたのでありますが、然るに近來日本人が徳川鎖國の後を受けて一度閉國して見ると、日本が非常に立ち遅れて居た、其の立ち遅れを短年月の内に補つて行かねばならぬと云ふ必要と熱心とに捕はれ此の建國の大精神を打ち忘れ、一も二もなく西洋の物質文化を模倣した。我々の祖先が作つた精神文化は農村を中心とした、文化であ

ります、農村中心の文化を作り上げ、之れを世界の總ての人類に與へてやれ、と云ふこの積極的態度に出發した大精神を忘れて、一も二もなく西洋の物質文化を模倣してしまふと云ふ歩み方、即ち彼に與ふるといふ積極的態度から、彼れより貰ふといふ消極的態度に一變したことが今日、日本の凡ゆる方面に行詰りを生じ國難來を叫ばざるを得ない運命に陥つた根本原因なりと思ひます。故に此の國難打開の根本策は何んであるかと言へば、我々日本國民が内に在つては飽く迄農村を中心とした精神文化の再建に努力することであり、外に向つては同じく精神文化を中心とした大經倫を行ふことであります。最近我國が滿洲國の獨立を援助したのも此の大理想實現に一歩を進め精神文化により三千万民衆に幸福と平和とを與へんとする建國の大精神に出發したものだと思ふのであります、即ち我々が此の大精神に目覺るとき、そこに初めて今日の國難を根本的に打開すべき方途の第一歩が踏み出されるのだと信じます。

## 七

果して然りとすれば、總ての制度、總ての施設、悉くが、そこに出發しなければならぬ。我が國は今や總ての點に於て一新の秋に到達して居ると考へるのであります。然らば此の國難打開の

第一歩は何處から踏み出して行くかと言へば、先程も言つたやうに、無論經濟方面からも努力しなければならぬ、併ながら私は之れは精神の力で打開しなければならぬと思ふ。而もその精神力を我々國民に與へるものは何んであるかと言へば、それは「教育」であると思ひます、總ては教育から出發しなければならぬ。教育と言へば非常に廻りくどいやうに考へられるけれども、急がば廻れで、教育に出發することが、實は國難打開に最も効果的な近道だと信じます、茲に何にも外國の例を持ち出して彼のお話をする必要はないのであります共、我々が百萬言を費して議論するよりも世界に於ける實例を以て説明する事が極めて解り易く且つ極めて確實だと考へますから一寸申上げて見ます。外國に於ても一度國難に遭遇した場合、教育に打開の途を求めたと云ふ例が非常に多いのであります。

その一例として獨逸を考へて見たい。一八〇六年エナの大戦に於て大敗をしたプロイセンの國王フリードリッヒ・ウヰルヘルム三世は、「此の大戦敗により物質的に失なつた損失は、これを精神の力に依つて回復しなければならぬ、而してこの目的を達する爲めには萬難を排して教育を盛んならしめなくてはならぬ」と言つて茲に獨逸の教育に一大革新が行はれ小學校の教育から大學の教育に至る迄非常な刷新を見たのであります、斯くて教育の効果は空しからず、一八七〇年の普

佛戦争に獨逸は勝利を得、茲に獨逸帝國統一の大業を達成するに至つた。之れは一例ですが、これによつて見ても如何に國難打開の基礎が精神力であり、而も其の精神力を國民に與へるものは教育であることが解る。それ以來の獨逸は非常に學問が進み商工業が發展した、而も大戦争に遭遇しても學問の力に依つて四年半も世界を相手に戦が出来たのであります。所があの大戦が初まる以前から獨逸の若い學生達の間に一つの運動が起つてゐた。どうも人間に取つては金よりも物よりももつと／＼尊いものがある筈であると云ふ氣分に即した一つの精神運動が起つて居つた。然し此の運動も世界大戦の爲めに中絶されてしまつて居つたのであるが、一九二六年に行はれた獨逸共和國の教育制度大改革に際して、この點を特に考慮し獨逸の制度が餘程精神方面に重きを置くやうになつたと云ふことは諸君御承知の通りであります。大戦後の獨逸の窮乏は日本の今日の窮乏とは比較にならぬ程深刻なものであります。あの大國難に際しての獨逸國民の努力の基礎は決して物質の力ではない精神の力である、而もその精神力の源泉はどうしても教育であると思ひます。故に日本も此の意味に於きまして、此の國難打開は先づ教育から出發すべきであります。

## 八

それからもう一つの例を申しますればデンマークであります。あのデンマークは最近半世紀の

間に於て世界無比の理想的農業國を作り上げたのであります、面積から言へば日本の九州と伯仲の間にあり、人口は三百五十萬で九州の三分の一より少し多い位のあの一小國が、何故に今日のやうな理想的農業國を作り上げたか、その原因は一體何處にあつたか、デンマークは前世紀の後半に於て色々の國難に遭遇した、一八六四年に獨逸聯合軍と戦つて見苦しい敗け方をした、其の場合にデンマーク國民は「此の戦敗により物質的に失はれた損失を精神的に回復しなければならぬ而もこの目的を達するには教育を盛んならしむるより外に途はない」と叫んで立ち上つた。それ迄はデンマークは非常に教育に對しては冷淡であつた、特種階級の人は別だが一般の國民大衆は教育に甚だ恵まれて居なかつた。それから間もなく一八七〇年代になるとアメリカ其他の新聞から、安い穀物が盛んに歐洲市場に流入して來た爲め、あの有名な農業恐慌時代を出現したので歐洲各國の農村の行詰は今日の日本の農村の行詰り以上であつた「その場合デンマークはどう云ふ態度をとつたか、デンマークは全然自由主義を採つて保護關稅を課しなかつたが、英國と異り農業と云ふものが國家の堅實な發達に必要なといふこの信念を棄てなかつた、即ち彼等は穀物栽培では到底米國その他の新開國と競走が出来ないから、畜産農業を以つて立たなければならぬと云ふ決心の下にデンマークの農民達が奮然として立つた。それ計りでないあの小さいデンマ

ークの農民達が個々に經營して居つては他の大農業國と世界市場に競争は出来ないから、之れはどうしても共同經營を以て進まなければならぬと決心した。而もこの目的を達するには産業組合を中心として進まなければならぬと云ふことになつたが、その結果が非常に好成績を挙げ久しからずして農民の天國デンマークを作りあげ、農村中心の新文化を建設した。政治も經濟も悉く農民の手に依つて運行されるといふのが今日のデンマークである。之れは今日の行詰つた農村打開のために非常に参考になることと思ふ。

それで我々がデンマークに就いて考へなければならぬことは、産業組合と云ふものはデンマークに限つた譯けではない、フランス、獨逸、イギリス等何れも夙にこれをやつて居つた、然るに本家本元の國よりもデンマークが好成績をあげ得た根本原因は實に教育の力であります、先程も申上げましたやうに、デンマークは戦つて大敗れをした其の國難を打開する爲めにはどうしても教育の力に依らなければならぬと云つて奮起したのであります。私は今デンマークの教育そのものに就ては詳しく申上げる時間がありませんが、兎に角デンマークの義務教育は農村中心の教育である、殊に男女青年が必ず一度は入學することになつてゐる教育機關である處の國民高等學校は何を教へるのであるか、それは歴史を中心としての教育であり、祖國愛、同胞愛、土壤愛等に於

て愛を中心としての教育であります。而して人間としての修養、農民としての訓練總て人間教育に重きを置き而も共同の精神を徹底的に吹き込んで居るのであります。之等の人達が社會に出て産業組合の理事者となり、組合員となつて共同經營に努力するのであります。産業組合の精神は共同の精神であり、其の共同の精神に於て世界無比の訓練を受けたデンマークの國民であるから産業組合を中心とした共同經營に世界無比の好成績をあげ引續く國難を打開して遂に理想的農業國を作り上げるに至つたのであります。而してその根本原因は教育の力に外ならぬのであります。

## 九

私は日本の今日の農村の行詰りを打開する爲めにはデンマークと同じやうに小さい農業經營をもつと大きな力にしなければならぬ、それには從來のやうな個々の經營ではいけない、共同經營に依らなければならぬ、即ち産業組合の如きものを中心として我が國の農村の行詰りを打開しなければならぬと云ふ事を主張して來て居つたのであります。此の間の臨時議會に於て農村救済の對策の一つとして農林省に經濟更生部と云ふものが出來た、これは私共が多年主張して來た所のものであります。實に愉快に堪へませんが、併ながら單に産業組合と云ふ一つの形式を以つて我

我がやつても、その根本の精神に目覺めて居ないと云ふことであつたならば、何んにもならないと思ひます。私はデンマークと同じ様に産業組合を中心としたものを日本でもやらなければならぬと云ふ事を二十年來叫んで居りますが、併しながらそれを模倣し形を學んだだけでは何んにもならない、デンマークに學ぶ所は産業組合に關する統計的數字でもなければ國民高等學校の名稱でもない。然らば何處に學ぶべきか、私はデンマークに學ぶべき中心點は別にあると思ひます。

私は思ひ起すのであるが、私が二十餘年前にデンマークの調査に行く途中汽車の中でデンマークの一人の紳士に出逢つた、その紳士が初めて日本人と親しく言葉を交はすと云ふので、非常に喜んで教へて呉れました。その紳士が最後に言ふには『デンマーク國民が三十年間苦心努力の結果作りあげた産業組合をお前はたつた三時間で盗み去るのだ。日本人は惻巧な國民だと豫ねて聞いてゐたが、ほんとにその通りだ』と言つた。私はそれを聞いた時に實に冷汗背をうるほした、何故ならば、明治以來六十年の間終始一貫西洋のものを模倣して來たのが我々日本人である。即ち日本人は外國に斯云ふ制度があつて非常に成績が良いからと云へば、猫も杓子も調査に行く。私が調査に行つた時コペンハーゲンの鶏卵の輸出組合聯合會を訪問して見た所が、日本で言ふならば理事長といふやうな人が机の上上山積にされた名刺の中から多くの日本人の名刺を取り出し

て私に見せたのでありますが彼は云つた「日本人が毎日程やつて来ては同じ様なことを調べて行くが日本といふ國は金の多い暇人の多い國だと見える」と皮肉らしく言つて居りました。實に其通りであります。斯くて調査したといへば立派に聞えるが、實は盗んで來たものが基礎となつて日本では一つ大にやらうといふことになり、先づ何が出来るかといふと法律規則が出来る、そうしてそれが上から下へ、中央から地方へ獎勵される、國民一般がそれに理解を持たうが持つまいが一切おかまいなし、又それが日本の實情に適しようが適しまいがそれも一切無關心である。我國の産業組合は明治三十三年三月に先づ産業組合法が出来て、獎勵され今日では世界有数の産業組合國になつたが、併しその實績はまだ充分でない。然しデンマークの歩み方は全然これとは逆であります、彼等はさう云ふ法律等持つてゐなかつたのであります。それにもかゝらずどうして斯云ふ良い成績を擧げたかと言へば、戦争國難に亞ぐに農業國難を以てし、國家が破滅せんとする非常時に際會した、デンマーク國民は農業の維持發展が、この國難打開の第一歩であり、同時に、彼等農民自體の運命打開の途であることを自認し、自力、自奮以て國難打開の大使命を達成すべく立ち上つたのであります。而してこの目的達成の爲めには産業組合に依る共同經營の外に途がないと信じたからであります。即ち此の精神があつてこそ初めてデンマークは世界無比

の産業組合國を完成したのであります。我々がデンマークに學ぶべき點は、國難に遭遇して自奮自力以て國難打開の大使命に猛進した、その涙ぐましい程の眞剣な努力だと信じます。若しそこに「自力更生」といふ言葉があるならば、このデンマーク國民の活動こそ眞に自力更生の好適例ではないでしょうか。

## 10

今日日本の行詰りを打開する方法に就いてたゞ百萬言を費して講演して見たところで、それは何んにもならない無益なことであります。此の行詰つた日本をどうすれば良いかと言へば我々全國民が奮然として起つより外に途はないのであります。デンマーク今日の成果は法律の力でもなく、また金の力でもない、然らば何んに依つてあの大事業は達成せられたかそれは、祖國を受すと云ふデンマーク國民の熱烈な精神の力に依り、完成されたのであります。

更に我が國が明治維新の大業を達成し、又日清日露の兩戰役に大勝利を得たのは決して、金の力ではなく機械の力でもなく又法律の力でもない、たゞ祖國愛に燃え切つた火の如き國民の意氣に由つたのであります。故に内外幾多の實例に徴して見ても、今日國難打開のために我々が進む

べき道はたつた一つしかない。我々は總てのものに超越して國民精神の力に依つて此の國難を打開しなければならぬ、私は斯く考へるのであります。而も總ての場合に於て國難打開の第一線に立つて働くべきものは其の國の青年諸君であり若人達であります。

私は國難打開の爲め青年の起つべき秋が來たと思ふ、否純眞玉の如く熱烈火の如き日本青年の起つべき秋は既に來て居るのであります。我々が眞に國家國民を念とするならば、起つて以て速に祖國日本を物質文化のドン底から救ひ上げ、天の心を心とする神武天皇以來の精神文化を再建すべく努力しなければなりません。而もそれは單に日本内地だけではなく、この精神文化を普く全世界に押し擴め全人類の幸福を増進し、世界の眞の平和を確立するといふ、建國以來の大使命を果すべく一路邁進しなければなりません。我々全國民が此の意氣に醒め此の決心とこの覺悟とを以つて立ち上るならば、世界の總てのものは、我等日本民族のさしまねく處にきゆう然として集り來るであらう。

斯くて初めて我が大日本帝國を中心として世界的景氣も回復する事が出来るであらうし、世界的平和の大殿堂も我等日本民族の手によつて完全に建立することが出来るであらう。今日は模倣一掃の時期であります。我々は何時迄も猿芝居を以て萬事終れりとするわけにはゆきませぬ

我々は本日限り綺麗さつぱり他力本願をかなぐり棄てなくてはなりません。故に我々が眞に昭和の新日本を創造し、精神日本再建の目的を達せんとするならば先づ以つて我々は日本の國家そのものに對して、『自力更生』を要望しなければなりません。日本の國民よ速かに精神文化の昔に還れ、日本の國家よ速に建國の大精神に更生せよ、斯くて初めて昭和維新の大業は達成せられ而して此の國難打開の根本策もそれより生れ出づるのであります。

# 國民更生叢書

中央教化團體聯合會編

1 國民更生運動  
要綱及綱領解説

【定價十錢】

內閣總理大臣 齋藤 實述

2 學國一致して  
この難局を突破せよ

【定價五錢】

陸軍大臣 荒木 貞夫述

3 國民更生の根本義

【定價十錢】

文部政務次官 東郷 實述

4 國難打開と精神日本の建設

【定價五錢】

以下續刊

中央教化團體聯合會刊行

東京市麹町區大手町・振替東京一七七八二

昭和七年十二月五日印刷  
昭和七年十二月十日發行

定價五錢

發行人 中央教化團體聯合會  
東京市麹町區大手町  
振替東京一七七八二  
印刷者 古谷 敬二  
東京市日本橋區淺草  
二丁目十七番地  
印刷所 久保直印刷所  
電話漢花三四六四番

終

4
2